

December 2018

約束のリバイバルの成就

ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

(マタイの福音書 13章23節)



聖所から流れ出る水ミッション

代表 エルサレム杉澤

皆様の尊いお祈りとご献金を有難うございます。

遣わされた今回のイスラエルチームで今年度のみことばを受け、11月にスタートした歩みは早くも一ヶ月経ちました。2015年5月米国セントルイスで「リバイバルが始まりました。」と主に語られ始った終末のリバイバルの働きの使命の成就において重要な意味合いを持つ派遣となりました。

当ミッションの母体となるTLCCC東京アンテオケ教会は、1984年に働きを始めると共に終末に建てられた教会として終末のリバイバルと終末の働きの使命に応答した教会です。当ミッションの働きは30年を迎えますが、徹底して主のみこころだけを求め、主に祈り聞き従うなかで、2013年9月のニュージーランドにおけるオセアニア宣教で世界の5大陸すべての宣教の働きを奇跡的に主は導かれ、現在の働きに至っています。海外宣教の働きを示され、応答し信仰で踏み出したときは、パスポートどころか、英語を話せる人もいませんでした。しかし、徹底して主のみこころだけを求め、祈り聞き従うなかで宣教に必要な経済を始めとしたすべてが満たされていきました。宣教の武器となる9つの御霊の賜物、特に「預言」の働きは、主のみこころを正確かつ早く捉えられるよう求めるなかで開かれました。宣教はまさに聖霊の働きであり、徹底して主に聞き従う宣教で進む聖霊の働きは誰もとどめることは出来ません。

今年度のみことばにある「悟る人」とは、神さまの教えや約束のことばを理解し、受け取り、信じ従う人を指します。当ミッションがスタートした時は何もありませんでした。あったのは、聖書のみことばを通して、又、預言を通して与えられた神の約束のことばだけでした。約束のことばに堅く立ち、「悟る人」となって、更に徹底して主に祈り聞き、語られたことを忠実に実行するならば、約束のリバイバルの成就を主が成してくださり、栄光を現してくださいませ。

写真中央：ガリラヤ湖をのぞむ、

アルベル山を登頂する

パウロ秋元牧師

